



## 2020年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2019年11月13日

上場会社名 株式会社ジェイエスエス

上場取引所 東

コード番号 6074 URL <http://www.jss-group.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤木 孝夫

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 田原 富夫

TEL 06-6449-6121

四半期報告書提出予定日 2019年11月13日

配当支払開始予定日

2019年12月13日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第2四半期の業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	4,421	0.7	256	4.3	255	3.3	169	8.1
2019年3月期第2四半期	4,452	1.5	245	15.2	246	13.7	156	14.1

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	43.42	
2019年3月期第2四半期	38.92	

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	6,646	2,888	43.5
2019年3月期	6,716	2,797	41.6

(参考)自己資本 2020年3月期第2四半期 2,888百万円 2019年3月期 2,797百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		7.50		7.50	15.00
2020年3月期		8.75			
2020年3月期(予想)				8.75	17.50

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年3月期の業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,942	2.4	504	6.9	501	3.2	319	0.5	79.49

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期2Q	4,026,056 株	2019年3月期	4,026,056 株
期末自己株式数	2020年3月期2Q	158,372 株	2019年3月期	73,572 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期2Q	3,899,093 株	2019年3月期2Q	4,025,684 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1)本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(2)当社は、2019年11月18日にアナリスト・機関投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する四半期決算説明資料については、開催後速やかに、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第2四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、貿易摩擦を巡る不確実性の高まりを受け、輸出や生産に力強さを欠きながらも、雇用・所得環境の改善や個人消費の持ち直し、企業収益の底堅い推移等を背景に緩やかな回復基調をたどりました。

この様な状況の中、当社におきましては例年より特典を充実した入会キャンペーンによる会員集客の強化を図り、入会者獲得が順調に推移した事で、前期に減少した在籍者を回復基調とする事が出来ました。

その他営業施策としましては、特許出願中である水中の特性を活かした関節等体への負担が少ない形でトレーニングができる自社開発の水中バイクについて、新たに開発した当器具を使った水中プログラムとともに、直営事業所へ順次導入を進めました。具体的には4月に関西地区5校で体験会を経て本番導入した事に続き、9月にはその他地区の7校にも体験会実施事業所を拡大する等、展開を進めました。

また、2019年7月に東京で開催されたスポーツ・健康産業日本最大の展示会である「スポルテック2019」において、昨年に引き続き水中バイク等の水中健康運動器具を展示、出展を行い、自社施設での導入実績を踏まえた業界関係者へのアピールを行う事で、同業他社等社外への販売へ向けたより現実的な販促を行いました。

選手強化面におきましては、2019年7月に韓国・光州で開催された第18回世界水泳選手権大会において、競泳の瀬戸大也選手(ANA/JSS毛呂山)が金2つ、銀1つのメダルを獲得、飛び込み競技の荒井祭里選手(JSS宝塚/武庫川女子大学)が入賞し、両選手ともに2020年7月から8月に掛けて開催される東京オリンピック代表に内定する結果となりました。

また、2019年9月に石川県・金沢で開催された日本選手権水泳競技大会においては、玉井陸斗選手(JSS宝塚)が男子高飛込で本大会史上最年少となる13歳0か月で優勝を果たしました。

このような営業施策により、当第2四半期末における全事業所の会員数は102,572名(前年同期比0.1%増)となりました。

なお、2019年9月に日本へ上陸し各地に被害を出した台風15号において、一部事業所で被害はあったものの営業に大きな支障を及ぼす事はありませんでした。今回の災害に関し、全社業績への影響は軽微なものと考えております。

以上の結果、当第2四半期累計期間における売上高は4,421百万円(前年同期比0.7%減)、営業利益256百万円(前年同期比4.3%増)、経常利益255百万円(前年同期比3.3%増)、四半期純利益169百万円(前年同期比8.1%増)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末の資産合計は、前事業年度末に比べ69百万円減少し、6,646百万円となりました。これは主に、有形固定資産が113百万円減少した一方で、現金及び預金が51百万円増加したことによるものであります。

負債合計は、前事業年度末に比べ160百万円減少し、3,758百万円となりました。これは主に、長期借入金が187百万円減少したことによるものであります。

純資産合計は、前事業年度末に比べ90百万円増加し、2,888百万円となりました。これは主に、利益剰余金が四半期純利益の計上等により142百万円増加した一方で、自己株式の取得により51百万円減少したことによるものであります。

なお、当社はスイミングスクール運営事業の単一事業であるため、セグメント別、事業部門別の記載を行っておりません。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前第2四半期会計期間末に比べ117百万円増加し、652百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は352百万円となりました。これは主に、税引前四半期純利益が255百万円、減価償却費が128百万円となった一方で、法人税等の支払額が70百万円となったことによるものであります。また、前第2四半期累計期間に比べ得られた資金は80百万円増加しておりますが、主に売上債権の増減額が28百万円、未払消費税等の増減額が20百万円、未払費用の増減額が18百万円変動し、いずれもキャッシュ・フローの増加となったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は17百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が10百万円となったことによるものであります。また、前第2四半期累計期間に比べ使用した資金は318百万円減少しておりますが、主に有形固定資産の取得による支出が326百万円減少したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は283百万円となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出が196百万円、自己株式の取得による支出が51百万円となったことによるものであります。また、前第2四半期累計期間に比べ得られた資金は369百万円減少しておりますが、主に短期借入金の純増加額が166百万円、長期借入れによる収入が130百万円減少したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、2019年5月14日に公表しました業績予想から修正を行っておりません。

なお、業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、実際の数値は今後様々な要因によって、予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	600,603	652,126
受取手形及び売掛金	148,155	141,362
商品	96,317	99,625
その他	72,550	74,456
貸倒引当金	△2,044	△1,989
流動資産合計	915,582	965,581
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,003,585	2,911,318
土地	1,685,215	1,685,215
その他(純額)	260,349	238,863
有形固定資産合計	4,949,151	4,835,398
無形固定資産	36,039	37,808
投資その他の資産		
敷金及び保証金	695,580	695,210
その他	155,830	146,918
貸倒引当金	△35,816	△34,481
投資その他の資産合計	815,593	807,648
固定資産合計	5,800,785	5,680,855
資産合計	6,716,367	6,646,437
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	195,551	258,583
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	397,780	389,254
未払法人税等	100,650	108,292
未払消費税等	73,545	81,810
前受金	550,349	570,153
賞与引当金	100,752	95,318
その他	542,923	498,946
流動負債合計	2,061,551	2,102,360
固定負債		
長期借入金	1,490,482	1,302,660
退職給付引当金	116,766	109,710
資産除去債務	179,561	180,590
その他	70,733	62,994
固定負債合計	1,857,543	1,655,955
負債合計	3,919,095	3,758,315
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	330,729	330,729
資本剰余金	125,665	125,665
利益剰余金	2,389,799	2,531,882
自己株式	△48,921	△100,155
株主資本合計	2,797,272	2,888,121
純資産合計	2,797,272	2,888,121
負債純資産合計	6,716,367	6,646,437

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	4,452,737	4,421,490
売上原価	3,704,857	3,658,198
売上総利益	747,880	763,291
販売費及び一般管理費	502,454	507,267
営業利益	245,426	256,024
営業外収益		
受取利息	385	400
退職給付引当金戻入額	4,404	—
貸倒引当金戻入額	0	1,389
その他	1,342	829
営業外収益合計	6,131	2,619
営業外費用		
支払利息	4,156	3,337
社債利息	50	—
その他	473	165
営業外費用合計	4,680	3,503
経常利益	246,878	255,140
特別利益		
固定資産売却益	5,585	671
特別利益合計	5,585	671
特別損失		
固定資産除却損	3,091	0
特別損失合計	3,091	0
税引前四半期純利益	249,372	255,811
法人税、住民税及び事業税	76,314	78,830
法人税等調整額	16,392	7,669
法人税等合計	92,707	86,499
四半期純利益	156,665	169,311

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	249,372	255,811
減価償却費	121,596	128,940
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1,336	△1,389
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△6,123	△5,433
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△11,208	△7,055
受取利息及び受取配当金	△385	△400
支払利息	4,156	3,337
社債利息	50	—
有形固定資産売却損益 (△は益)	△5,585	△671
有形固定資産除却損	3,091	0
売上債権の増減額 (△は増加)	△21,245	6,792
たな卸資産の増減額 (△は増加)	8,449	△3,307
仕入債務の増減額 (△は減少)	92,055	68,037
未払金の増減額 (△は減少)	△20,535	△11,218
未払費用の増減額 (△は減少)	△36,999	△18,362
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△12,838	7,535
前受金の増減額 (△は減少)	6,699	19,804
その他	△29,726	△15,947
小計	342,159	426,472
利息及び配当金の受取額	385	400
利息の支払額	△4,293	△3,423
法人税等の支払額	△66,597	△70,802
営業活動によるキャッシュ・フロー	271,653	352,647
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△337,218	△10,814
有形固定資産の売却による収入	5,585	671
無形固定資産の取得による支出	△6,778	△7,800
貸付けによる支出	—	△2,577
貸付金の回収による収入	2,440	2,611
敷金及び保証金の差入による支出	△2,660	△1,895
敷金及び保証金の回収による収入	2,547	1,831
投資活動によるキャッシュ・フロー	△336,082	△17,972
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	166,000	—
長期借入れによる収入	130,000	—
長期借入金の返済による支出	△171,640	△196,348
社債の償還による支出	△6,250	—
自己株式の取得による支出	—	△51,336
配当金の支払額	△25,160	△29,643
その他	△6,847	△5,823
財務活動によるキャッシュ・フロー	86,102	△283,151
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	21,673	51,523
現金及び現金同等物の期首残高	513,093	600,603
現金及び現金同等物の四半期末残高	534,767	652,126

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2019年2月13日開催の取締役会決議に基づき、自己株式84,800株の取得を行いました。この結果、当第2四半期累計期間において自己株式が51,233千円増加し、当第2四半期会計期間末において自己株式が100,155千円となっております。

(セグメント情報)

当社はスイミングスクール運営事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。